

## 高等学校の新学習指導要領解説書における「新聞」関連記述（抜粋）

この資料は、新学習指導要領（平成30年3月告示）解説（同年7月）から、「新聞」「報道」「論説」「ニュース」などの記述を抜き出したものです。「新聞」以外の語句については、新聞との関連性を勘案して抽出しています。

### 【情報科（各学科に共通する教科）】

#### 第1章 総説

##### 第3節 情報教育の中での共通教科情報科の位置付け

###### 5 高等学校の他教科等との関係

高等学校段階における情報教育を、共通教科情報科だけが担うように極めて限定的に捉えてはならない。高等学校学習指導要領第1章総則第3款の1の(3)に「第2款の2の(1)に示す情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。また、各種の統計資料や**新聞**、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。」とあるように、義務教育段階と同様、高等学校段階においても、教科等の特質に応じて教科等横断的に情報活用能力を身に付けさせる教育のより一層の充実が求められている。

また、高等学校学習指導要領第2章第10節情報第3款の1の(2)に「他の各教科・科目等の学習において情報活用能力を生かし高めることができるよう、他の各教科・科目等との連携を図ること。」とあるように、共通教科情報科の学びによって身に付けた能力や態度を他の教科・科目等の学習において積極的に活用していくことが重要である。更に第3款の1の(4)に「公民科及び数学科などの内容との関連を図るとともに、教科の目標に即した調和のとれた指導が行われるよう留意すること。」とあるように、(2)の内容をより明確に示す規定を設け、他教科等との関連が重要なことを示している。このことを踏まえ、学校全体での情報教育を考えるときには、共通教科情報科と他教科等の学習内容や学習活動との関連をよく検討してカリキュラム・マネジメントを行い、効果的な指導計画を立てることが大切である。

その際、高等学校学習指導要領第1章総則第3款の1の(6)にあるように、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図ることも大切である。書籍やデジタルメディアなどの情報と情報手段を合わせて利用できるようにした学校図書館を、学習情報センターとして生徒の主体的な学習活動に役立てていけるように整備を図り活用していくことが必要である。

#### 第2章 共通教科情報科の各科目

##### 第1節 情報Ⅰ

###### 2 内容とその取扱い

## (2) コミュニケーションと情報デザイン

メディアとコミュニケーション手段及び情報デザインに着目し、目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (ア) メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解すること。
- (イ) 情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解すること。
- (ウ) 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付けること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (ア) メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択すること。
- (イ) コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考えること。
- (ウ) 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善すること。

### 内容の取扱い

(3) 内容の(2)のアの(イ)については、身近で具体的な情報デザインの例を基に、コンピュータなどを簡単に操作できるようにする工夫、年齢や障害の有無、言語などに関係なく全ての人にとって利用しやすくする工夫などを取り上げるものとする。

ここでは、目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通じて、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、メディアの特性やコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解するようにし、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を身に付けるようにするとともに、コンテンツを表現し、評価し改善する力を養うことをねらいとしている。

また、こうした学習活動を通して、情報と情報技術を活用して効果的なコミュニケーションを行おうとする態度、情報社会に主体的に参画する態度を養うことが考えられる。(略)

ア(ア)メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解することでは、コミュニケーションを行うために、表現、伝達、記録などに使われるメディアの特性、同期や非同期、1対1や1対多数などのコミュニケーション手段の特徴について理解するようにする。また、情報技術の発達によりコミュニケーション手段が変化したこと、情報の流通量や範囲が広がったこと、即時性や利便性が高まったこと、効果や影響が拡大したこと、コミュニケーションの役割が変化したことなどについて理解するようにする。(略)

イ(ア)メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に

応じて適切に選択することでは、よりよくコミュニケーションを行うために、複数のメディアと複数のコミュニケーション手段の組合せについて考える力、コミュニケーションの目的や受け手の状況に応じて適切で効果的な組合せを選択する力、自らの取組を振り返り評価し改善する力を養う。

例えば、(略) が考えられる。

また、**マスメディア**の情報伝達手段の変遷を取り上げ、紙、電波、情報通信ネットワークなどを扱い、個人と個人のコミュニケーション手段の変遷を取り上げ、手紙、電子メール、SNSなどを扱うことが考えられる。また、実際にメディアの扱いやコミュニケーション手段を体験し、それぞれのメリットやデメリットについて扱うことが考えられる。更に、選択したメディアやコミュニケーション手段の組合せを振り返り、評価し改善する学習活動などが考えられる。(略)

#### (4) 情報通信ネットワークとデータの活用

情報通信ネットワークを介して流通するデータに着目し、情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを活用し、問題を発見・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (ア) 情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解すること。
- (イ) データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解すること。
- (ウ) データを表現、蓄積するための表し方と、データを収集、整理、分析する方法について理解し技能を身に付けること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (ア) 目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける必要な構成要素を選択するとともに、情報セキュリティを確保する方法について考えること。
- (イ) 情報システムが提供するサービスの効果的な活用について考えること。
- (ウ) データの収集、整理、分析及び結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善すること。

##### 内容の取扱い

(5) 内容の(4)のアの(ア)及びイの(ア)については、小規模なネットワークを設計する活動を取り入れるものとする。アの(イ)及びイの(イ)については、自らの情報活用の評価・改善について発表し討議するなどの活動を取り入れるものとする。アの(ウ)及びイの(ウ)については、比較、関連、変化、分類などの目的に応じた分析方法があることも扱うものとする。

ここでは、情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを活用する

活動を通して情報の科学的な見方・考え方を働かせて、情報通信ネットワークや情報システムの仕組みを理解するとともに、データを蓄積、管理、提供する方法、データを収集、整理、分析する方法、情報セキュリティを確保する方法を身に付けるようにし、目的に応じて情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを安全かつ効率的に活用する力やデータを問題の発見・解決に活用する力を養うことをねらいとしている。

また、こうした学習活動を通して、情報技術を適切かつ効果的に活用しようとする態度、データを多面的に精査しようとする態度、情報セキュリティなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとする態度を養うことが考えられる。(略)

例えば、(略) 学習活動などが考えられる。

更に、テキストマイニングの学習として、**新聞記事**や小説などをテキストデータとして読み込み、適当な整形等を行った上で、単語の出現頻度について調べさせ、出現頻度に応じた文字の大きさで単語を一覧表示したタグクラウドを作らせ、単語の重要度や他の単語との関係性を捉える学習活動などが考えられる。英語と日本語では、テキストマイニングをする際にどのような部分に違いがあるのかについて討論したり、実際にテキストマイニングを行って比較したりする活動なども考えられる。

## 第2節 情報Ⅱ

### 2 内容とその取扱い

#### (2) コミュニケーションとコンテンツ

多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性に着目し、目的や状況に応じて情報デザインに配慮し、文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを協働して制作し、様々な手段で発信する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (ア) 多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性との関係について理解すること。
- (イ) 文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作する技能を身に付けること。
- (ウ) コンテンツを様々な手段で適切かつ効果的に社会に発信する方法を理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (ア) 目的や状況に応じて、コミュニケーションの形態を考え、文字、音声、静止画、動画などを選択し、組合せを考えること。
- (イ) 情報デザインに配慮してコンテンツを制作し、評価し改善すること。

(ウ) コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考え、発信の手段やコンテンツを評価し改善すること。

#### 内容の取扱い

(2) 内容の(2)のアの(ア)及びイの(ア)では、コンテンツに対する要求を整理する活動も取り入れるものとする。アの(ウ)及びイの(ウ)では、発信者、受信者双方の視点からコンテンツを評価する活動を取り入れるものとする。

ここでは、コミュニケーションを適切に行うために、目的や状況に応じてコンテンツを制作し、発信する学習活動を通じて、情報の科学的な見方・考え方を働かせ、多様なメディアを組み合わせることでコンテンツを制作する方法やコンテンツを発信する方法を理解し、必要な技能を身に付けるようにするとともに、情報デザインに配慮してコンテンツを制作し評価し改善する力を養うことをねらいとしている。

また、こうした学習活動を通して、制作したコンテンツを適切かつ効果的に発信しようとする態度、コンテンツを社会に発信した時の効果や影響を考えようとする態度、コンテンツを評価し改善しようとする態度を養うことが考えられる。(略)

ア(ア)多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性との関係について理解することでは、適切にコミュニケーションを行うために、コミュニケーションには送り手と受け手の組合せによって1対1、1対多数、特定少数対不特定多数などの多様な形態があること、情報を表現するメディアには文字、音声、静止画、動画などによる特性の違いがあること、情報を伝えるメディアには電話、テレビ・ラジオなどのような同期型のものと、手紙、電子メール、**新聞**のような非同期型のものがあることを理解するようにする。その際、コミュニケーションの形態とメディアの特性の組合せが重要であることも理解するようにする。(略)

### 【情報科（主として専門学科において開設される教科）】

#### 第2章 専門教科情報科の各科目

#### 第11節 メディアとサービス

#### 第2 内容とその取扱い

#### 2 内容

#### 〔指導項目〕

(1) メディアと情報社会

ア メディアの機能

イ メディアの活用

内容の範囲や程度

ア [指導項目] の(1)のアについては、多様なメディアの定義と特徴について扱うこと。イについては、メディアを活用している身近な事例を取り上げ、利用者の目的や状況に合わせたメディアの適切な選択について扱うこと。

## (1) メディアと情報社会

### ア メディアの機能

ここでは、社会で利用されている**新聞**、テレビ、電話、インターネットなどのメディアの機能、仕組み、処理の概要などの特性を取り上げ、メディアに関わる基礎的な知識と技術を扱う。また、コンテンツを伝えるためのメディアの具体例を取り上げ、メディアの必要性や重要性について考えること、情報産業や社会におけるメディアの活用状況や果たしている役割などについて扱う。

### イ メディアの活用

ここでは、具体的な事例や実習を取り上げ、利用者の目的や状況に合わせたメディアの適切な選択、組合せ、既存のメディアの分析、新たな活用に関する企画・提案、情報セキュリティに配慮した運用・管理について扱う。その際、メディアに関連する外部組織の見学やヒアリングによる情報収集活動を行うことが考えられる。また、複数のメディアを統合したコンテンツ、多様なセンサからの入力と多様なデバイスへの出力を伴うインタラクティブなメディアの創造についても扱う。その際、メディアの分析や活用については、専用のツールを用いたり、プログラミングなどの手法を用いたりすることが考えられる。

#### [指導項目]

## (2) メディアを利用したサービス

### ア メディアを利用したサービスの機能

### イ メディアを利用したサービスの活用

#### 内容の範囲や程度

イ [指導項目] の(2)のアについては、社会で用いられているメディアを利用したサービスの種類と特徴について扱うこと。イについては、メディアを利用したサービスを分析する実習や新たなサービスを企画し提案する実習を行うこと。また、センサなどと組み合わせたサービスについても触れること。

## (2) メディアを利用したサービス

### ア メディアを利用したサービスの機能

ここでは、メディアを利用して社会的な価値と意義を有するコンテンツを提供するサービスについて具体的な例を複数取り上げ、サービスの機能、仕組み、処理の概要や企画・設計及び運用・管理などの基礎的な知識と技術を扱う。ここで取り上げる分野には、出版、放送、**広告**、娯楽、文化、公共などが考えられる。また、メディアを利用したサービスの必要性や重要性について考えること、情報産業や社会におけるメディアを利用したサービスの活用や果たしている役割などについて扱う。例えば、メディアを利用したサービスに

よって収益を得る仕組みや、サービスを無料で提供することを実現する仕組みなどを扱うことが考えられる。

#### イ メディアを利用したサービスの活用

ここでは、具体的な事例を取り上げ、メディアを利用者の目的や状況に合わせて適切に選択したり、組み合わせたりする実習や、利用者の目的や状況に合わせたサービスの企画・提案、設計や運用・管理などについて扱う。ここで扱う対象は、アで扱ったサービスの事例、アプリケーションや Web 上のツールやサービスなどが考えられる。実習に際しては、他者との協働活動を積極的に取り入れた学習、情報端末や各種センサなどを組み合わせたサービス形態について扱う。また、情報産業及び情報産業に関わりのある外部組織との連携による講義、実習、演習等を取り入れることも考えられる。

以 上